

# 国史跡桜京古墳整備基本計画 (概要版)



(石室内部石屋形全景)

平成24年3月

宗像市教育委員会



## 序 文

本市では「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録に向け、福岡県、福津市と共同で学術会議やシンポジウム、市民協働事業などを進めております。平成 21 年 1 月にはユネスコの世界遺産暫定リストに掲載され、本登録へ向けた調査や研究、啓発事業が加速しているところです。

このような取り組みの中、史跡整備計画を進めている桜京古墳は、市内を貫流する釣川河口の丘陵上に分布するおよそ 200 基からなる牟田尻古墳群のひとつで、北部九州では数少ない市内唯一の装飾古墳として知られております。石室の開口は寛文十三年（1673）の落書きから江戸時代にさかのぼることが判っており、以後人の出入がかなりあったようですが、昭和 46 年、考古学の大好きな高校生たちによって色鮮やかな三角文が描かれた装飾古墳であることがわかり、昭和 51 年（1976）3 月に国史跡に指定されました。

現在は地元の方々もめったに訪れることのないうっそうとした樹林に覆われていますが、木々の間からは古より中国大陸や朝鮮半島からさまざまな文物が行き交った玄界灘を望むことができます。古墳の本質的価値である装飾壁画を次世代へと適切に守り伝えてゆくことを第一とした上で、この眺望を活かした活用を念頭に置き、本整備計画を策定いたしました。今後は、宗像海人の活躍をしのび歴史ロマンを感じるビュースポットとして、また豊かな自然に包まれた憩いの場として多くの市民に親しまれる歴史公園づくりを進めてまいります。

最後に、今回の基本設計策定にあたり、市民ワークショップにご参加され貴重なご意見をいただきました神湊地区並びに田島地区コミュニティ運営協議会をはじめとする市内の各種団体の皆様、ご審議をいただきました宗像市史跡保存整備審議会委員の皆様から感謝の意を表します。

平成 24 年 5 月

宗像市教育委員会  
教育長 久芳 昭文

# 1 計画策定の背景

## 1) 桜京古墳とは

- ・宗像市の西沿岸部に位置する桜京古墳は、昭和46年（1971年）に発見され、昭和51年（1976年）3月「玄界灘に面して存在する数少ない装飾古墳として貴重なものである」として国史跡に指定されています。

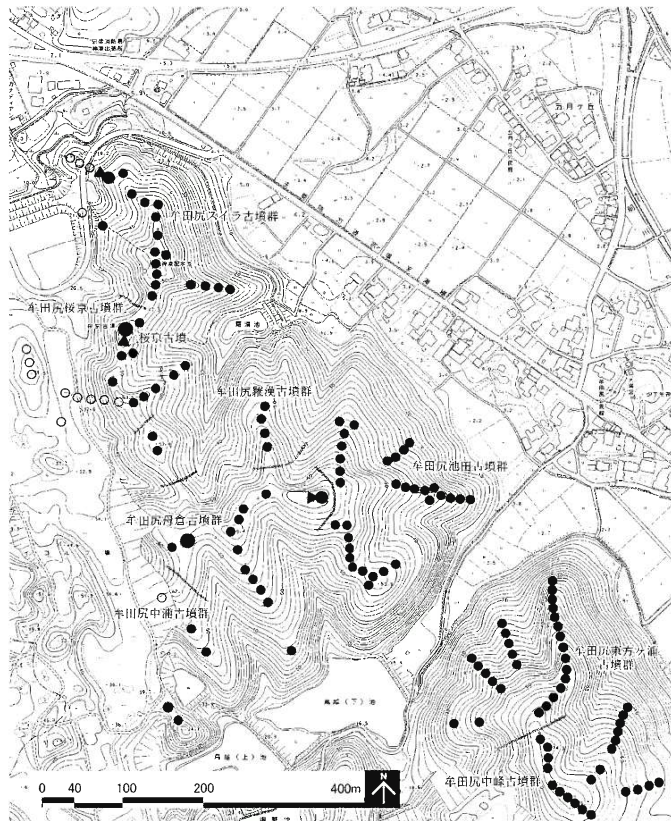


(桜京古墳後円部北側)



(CGで鮮明にした壁画)

- ・釣川河口左岸の丘陵上、標高約50mに位置する前方後円墳で、規模は全長約39m、時期は6世紀後半頃に築造と考えられます。
- ・全国で約700基が確認されている装飾古墳のひとつであり、赤・白・緑に塗り分けられた三角文が奥壁などに描かれています。この文様に込められた意味を読み解くことで、古代宗像人の死後に対する考え方を知る手がかりを得るとともに、装飾古墳の中心的な分布圏である有明海地域・遠賀川流域との交流を推察できるかけがえのない文化遺産です。
- ・20数基からなる牟田尻桜京古墳群のひとつであり、さらに広域的には200基余りが分布する牟田尻古墳群に含まれます。この古墳群は玄界灘を活動の舞台とし、沖ノ島祭祀にも関った宗像海人族の墳墓群と考えられます。
- ・墳丘には装飾の描かれた第1主体部のほか、未調査の第2主体部や墳丘に隣接する5基の円墳が確認され、本古墳に関りの深い人物が眠るものと推定されます。



(牟田尻古墳群)

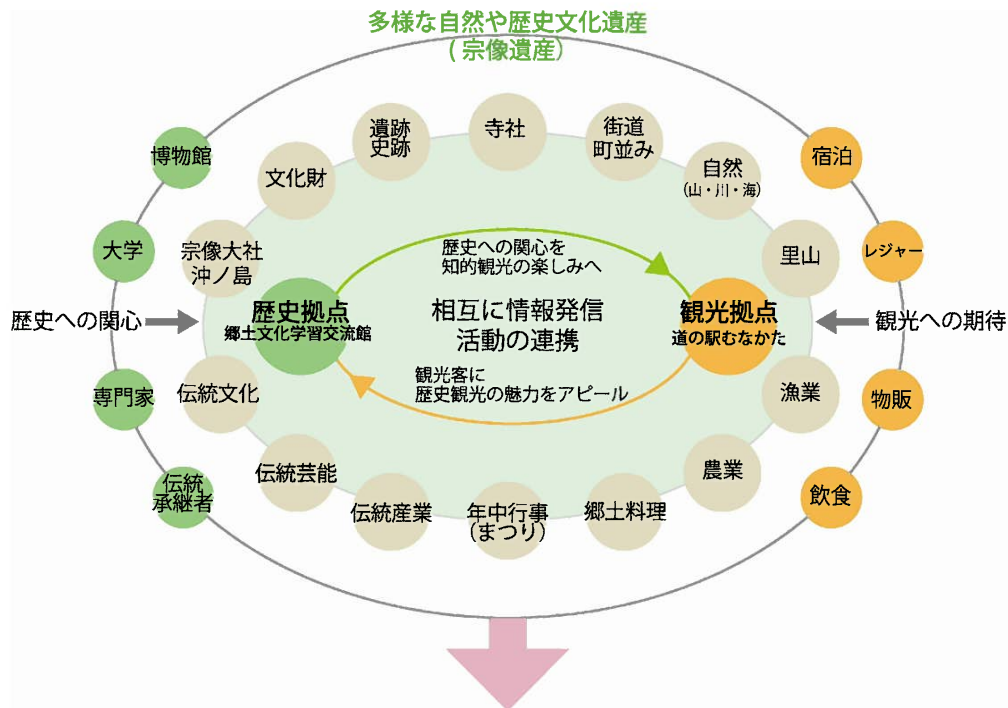
## 2) 社会的背景

・福岡市と北九州市のほぼ中間に位置する宗像市は、その立地的、地形的特徴から古代から交通や文化交流の要衝であったため、多彩な歴史を有しつつ、同時に多くの自然も残しています。地域の特色を生かしたまちづくりが求められています。



(海の正倉院と称される「沖ノ島」)

- ・平成 21 年(2009 年)に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」がユネスコの世界遺産暫定リストに記載された。桜京古墳はこの構成資産のひとつとして、世界遺産登録活動との連携が求められています。
- ・宗像市は、市民協働によるまちづくりを進めています。市民とともに歴史、文化遺産を活用することで、郷土愛の醸成や観光産業に対する相乗効果など、史跡整備には地域活性化の面でも多くの事が求められています。
- ・市域全体の自然や歴史文化を宗像遺産ネットワークとして結び、市民とともに活用運営することなどを目的とした「郷土文化学習交流館（海の道むなかた館）」が歴史拠点施設として平成 24 年度にオープンします。郷土文化学習交流館と連携した史跡整備・活用が求められます。



### 宗像遺産ネットワーク (仮) ※名称要検討

- 宗像市全体をひとつの博物館と見立てる
- 宗像市全域が歴史学習の場であり、歴史観光の場でもある
- 博物館などの施設に資料や情報を集約するのではなく、現場へ足を運び、自然風土を体感し、地域の人々との交流をたのしみながら宗像の歴史文化に親しみ、知る新しい歴史学習、歴史観光を展開する

### 3) 史跡と周辺の現状

- ・発見当時の墳丘部分の面積、893 m<sup>2</sup>が公有地化され、国史跡として保存されています。
- ・墳丘は西側が大きく崩落し、継続的な盛土の流出が懸念されています。また周辺の植生は竹林が浸潤し、墳丘上には樹木が繁茂するなど壁画と石室の存続を脅かしています。さらに石室の開口部は、土のうにより仮密閉されている状況であり、緊急な整備が求められています。

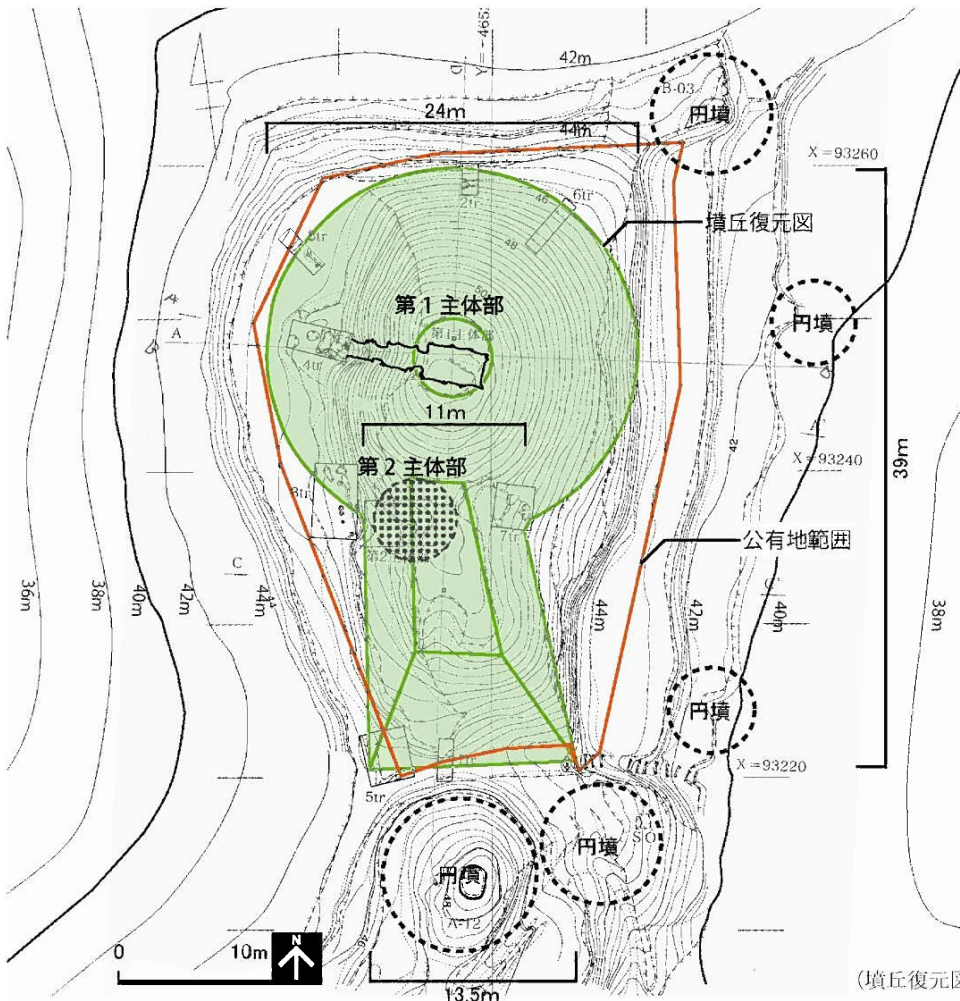


(崩壊する墳丘、墳丘北側から)



(墳丘に迫る竹林)

- ・桜京古墳が立地する丘陵は急勾配な地形のうえ、周辺の森林は荒廃が進んでいます。また周辺に分布する牟田尻古墳群は保護が求められています。



(墳丘復元図と公有地範囲)